

金森伸彦
(熊本農研セ球磨)

【目的】

球磨地方において稲発酵粗飼料用イネの主力となっている「モーれつ」は収量性、耐倒伏性に優れるが、たばこ後等の晩期栽培における熟期および収穫調整時における脱粒が問題となっている。そこで、(独)九州沖縄農研センターにおいて新たに育成された飼料イネ品種西海飼253号について、晩期栽培等における栽培特性を「モーれつ」と比較検討する。

【材料及び方法】

2004年から2005年にかけて、6月25日移植および7月15日移植(いずれも稚苗機械移植)における「モーれつ」と西海飼253号の比較検討を行った。また、2004年には湛水直播(6月11日播種、播種量「モーれつ」0.2kg/a、西海飼253号0.3kg/a)、2005年には乾田不耕起直播(6月3日播種、播種量「モーれつ」0.3kg/a、西海飼253号0.5kg/a)における「モーれつ」と西海飼253号の比較検討を行った。

いずれの試験もN施肥量は1.2kg/a(緩行性肥料による全量基肥)とし、乾物収量およびTDN収量は出穂40日後に収穫したサンプルについて調査した。

【結果及び考察】

西海飼253号は、6月下旬移植、7月中旬移植、湛水直播(6月中旬播種)、乾田直播(6月上旬播種)のいずれでも糊熟~黄熟期での収穫が可能で、収量性は6月下旬移植および湛水直播、乾田直播では「モーれつ」と同等以上であるが、7月中旬移植では「モーれつ」よりも劣った。(図1, 2)。

また、いずれの栽培法においても耐倒伏性は「モーれつ」と同等以上で(図3)、脱粒性は「モーれつ」よりも明らかに難であった。

なお、西海飼253号はいもち病および白葉枯病に対する抵抗性が「モーれつ」に劣ることと、玄米の外観が食用品種と変わらないため識別が困難であることに注意が必要と思われた。

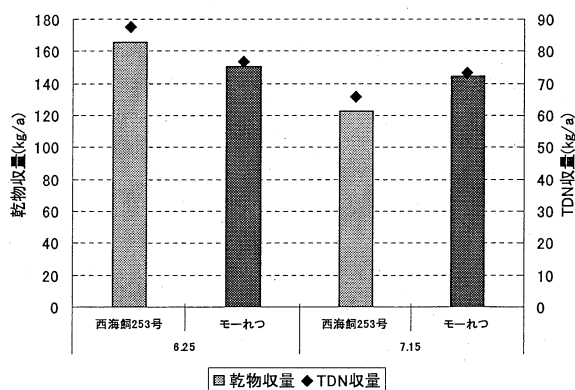


図1 西海飼253号の収量性(移植)

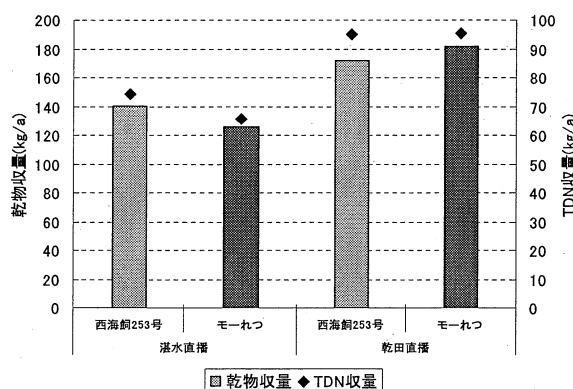


図2 西海飼253号の収量性(直播)

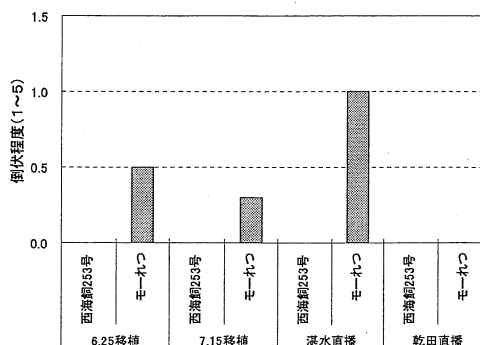


図3 倒伏程度の比較